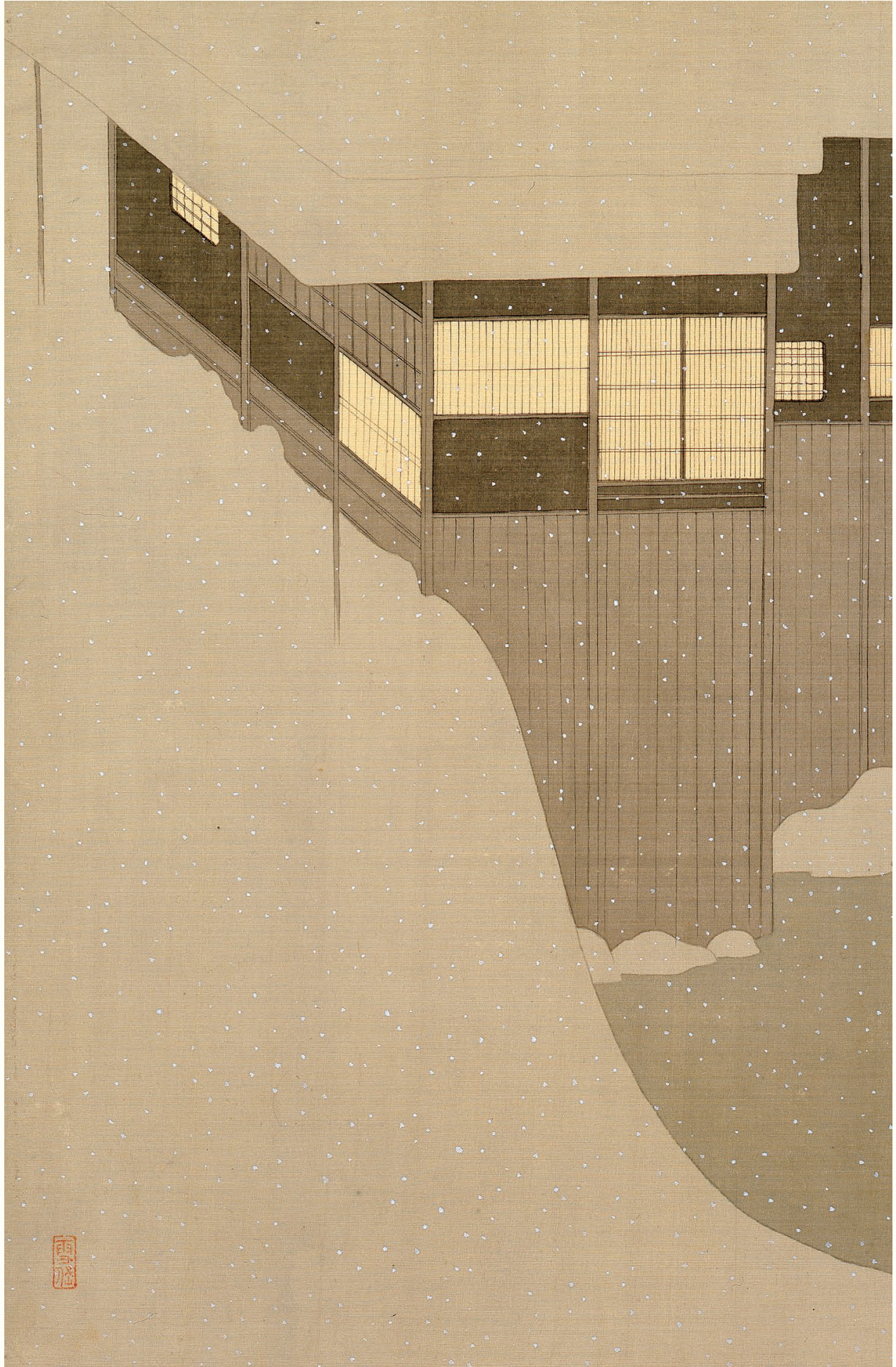


fam.s

ファミ通 No.48
friends of art museum, saitama



MARUNUMA ART PARK

丸沼芸術の森は、アーティスト育成を目的とした制作活動の場（アトリエ）を提供するため、1985年、須崎勝茂代表によって埼玉県朝霞市に設立。アンドリュー・ワイエス、ベン・シャーンなど約4,500点以上の美術品が收藏され、国内外に公開しています。
敷地内にあるワイエスセンター・図書室で学芸員河野和子さんに伺いました。



Q1. 埼玉県立近代美術館へ6作品(*1)をご寄託いただきましたが、その経緯など教えてください。
寄託している6作品は、文化庁の登録美術品制度(*2)に登録、または登録を予定しているものです。制度の条件として美術館との連携があり、定期的な公開が必要となります。須崎代表は常々「美術品は預かりもの」ということを申しています。登録することで、国内外で見ただけの機会が増えていきます。当方のアトリエにいる作家の勉強の意味も含め、どんどん作品が増えていきました。丸沼芸術の森は自前の美術館を持っていないので、展示する場を提供していただき、貸してほしいというご要望に応じて、広く皆様に見ていただいております。

新しいア
って
どんなところ？



丸沼芸術の森



お話を伺った河野和子さん
(ワイエスセンター・図書室にて)

Q2. その素晴らしい作品を購入するきっかけはどのようなところからですか。

須崎代表は作品と本当に縁がある方です。モネ(*5)とブーダン(*6)の作品についてもモネの作品を先に收藏し、その後、ブーダンのお話をいただきました。子弟関係の二人はノルマンディーの同じところで同じように絵を描いていましたが、その時の作品を丸沼芸術の森でもとに收藏することとなりました。二人の作品がお互いを奇跡的に引き寄せたのだと思います。

作品を購入するにあたっては、代表個人の決断だけではなく、作家や埼玉近美の学芸員の方の意見もお聞きし、最終的に結論を出しています。作家や学生の皆さんの勉強になれば、という気持ちもありますので、大きな作品は埼玉近美などに展示していただくとともに、素描や習作、水彩などは、丸沼芸術の森に收藏し、制作の参考になるようにしています。

また、代表は、地域の皆様への思いが大変強い方で、常に朝霞市博物館と連携し、企画展を開催しています。それらは無料で見られるので地域の皆様に気軽に足を運んでいただけます。昨年開催した企画展は「朝霞にファン・ゴッホ！」のキャッチフレーズで話題になりましたが、ファン・ゴッホの水彩画もやはり機会があつて、作家や学芸員、またファン・ゴッホ研究の第一人者である著名な先生にも見ていただき、購入に至りました。代表が大事にしている人との繋がりの中でいろいろなお話をいただき、作品との出会いが実現しています。

Q3. 現在、アトリエ利用の作家さんが10名ほどいらっしゃると思いますが、その作家さんたちの主な活動状況や丸沼芸術の森自体の活動など、教えてください。

作家個別の活動としては、各作家が個展、グループ展など国内外で制作発表をしています。その開催時には、代表が会場に足を運び作家の成長を見届けています。

丸沼全体としての活動としましては、丸沼芸術の森展(*3)、美術鑑賞会(*4)を開催しています。更に、東日本震災や熊本地震など、震災に遭われた方々に少しでも安らぎや勇気を、という思いから復興支援を行っています。また、最近では、ウクライナのことがあつて、平和への祈りをこめて兵庫県の西脇市のアピカホールでフルート奏者である代表の奥様の演奏とともに、第五福竜丸の作品をはじめとしたベン・シャーン展を開催しました。基本的に無料で開催する事が多い中、観覧料などを頂いた場合はご支援に回させていただきます。

Q4. アーティスト・イン・レジデンスなど、新しい計画などはありますか。

現在は、韓国の文化院と連携し、韓国から年に3人が順番に来日しています。3か月間の滞在期間中、丸沼のコレクションに触れたり、作家と交流したりして、留学期間終了前に日本で制作した作品を展示室にて一般公開しています。2017年からスタートして今年で12人をお迎えしています。今後は、更に世界各地からの作家を受け入れる予定です。

Q5. 「丸沼美術サロン」について伺います。

「朝霞市が日本の芸術発信地となるために地元の方が気軽に足を運んで芸術への関心を高めてもらえるくつろぎの空間」を作りたい、との代表の想いを実現したのが「丸沼美術サロン」です。このサロンでは丸沼芸術の森所蔵作品を展示しており、サロンのメニューとしてご用意しているバームクーヘンやお茶とともに作品を身近に感じながらゆっくり楽しんでいただける場となっています。(N.K.&M.M.)



丸沼美術サロン

丸沼芸術の森
公式サイト



(*1) ウジェーヌ・ブーダン《ノルマンディーの風景》(1854~1857年)
クロード・モネ《ルエルの眺め》(1858年)
ウジェーヌ・ドラクロワ《聖ステパノの遺骸を抱え起す弟子たち》(1860年)
アルフレッド・シスレー《セーヴルの坂道》(1879年)
フィンセント・ファン・ゴッホ《草地、背景に新しい教会とヤコブ教会》(1882年)
マルク・シャガール《白い裸婦》(1962年)

(*2) 文化庁の登録美術品制度とは、個人や法人が所蔵する優れた美術品の鑑賞の機会を増やすため所有者からの申請に基づき文化庁が登録し美術館で一般に公開する制度。
(*3) 丸沼芸術の森展とは、一年間の制作活動の成果を発表する展覧会で年末に丸沼芸術の森展示室にて開催。
(*4) 美術鑑賞会とは、地域に根差した活動として、ほぼ毎月丸沼芸術の森の作家が講師となり収蔵品の中から展示公開した作品の解説を行う勉強会。作家と参加した一般の方々との意見交換の場ともなっています。

丸沼芸術の森代表 須崎勝茂氏のおはなし

芸術を通じた自己表現への熱意や、表現手法を高めるための日々の弛まぬ努力は、いつの時代の作家も変わりはないものだと思います。一方、近年の作家は、海外の作家や作品に触れる機会が増え、グローバルになってきており、活躍の場として“世界”を意識する傾向が強くなってきていると感じています。

支援対象の作家を選定するにあたっての具体的な基準というものは設定していませんが、以下の様な要素を複合的に勘案して最終的に判断しています。

- ・作家の創作環境（環境に恵まれていない作家への活動の場の提供）
- ・芸術に対する真剣な思い（将来的にも芸術活動をしていく作家への支援）
- ・グローバルな活躍を目指す意欲（世界に羽ばたく作家のファーストステップの提供）

収蔵作品については、芸術に取り組む姿勢や作品の完成度等に共感した場合に、その作家の作品を収集するようにしています。現在の収蔵品は「丸沼芸術の森」の作家の勉強の一助になればとの思いから、習作や素描、デッサン画が中心であり、今後もその傾向での蒐集になると思います。



ウジェーヌ・ブーダン 《ノルマンディーの風景》(1854~1857年) (*5)



クロード・モネ 《リエルの眺め》(1858年) (*6)

トリエ



おでかけ あーとすぽっと 大阪中之島美術館へ行ってきました! Art Spot

大阪市北区中之島 4-3-1
TEL: 06-6479-0550

大阪中之島は都会のオアシス!



開館したのは大阪中之島美術館。開館時点ですでに6,000点を超える作品が収集されていると聞けば、どんな作品と出会うのか気になるところ。

初めて訪問する大阪中之島美術館。入口はどこだろう?と、堂島川側の道路からふと見上げると、オレンジ色の宇宙服のようなものを身に着けた大きなネコがいる! 出迎えてくれたのは、ヤノベケンジ氏の《SHIP'S CAT(Muse)》(2021)。大航海時代の旅の安全と貨物を守る船乗りネコをモチーフにした作品です。

《SHIP'S CAT(Muse)》の後ろに、宙に浮いているかのように見える黒い壁で覆われた直方体が、大阪中之島美術館。周辺の高層ビル群はステンレス色のなか、こだけが低層なうえに、ひととき黒い!

大阪中之島は、堂島川と土佐堀川に挟まれた東西3kmほどの細長い中州。歴史的建築物とともに、整備されたバラ園や川沿いの散歩道、コンサートホールや美術館、科学館もあり、心豊かなひとときを過ごせる人気のエリアとなっています。その西側のエリアに、構想から約40年、満を持して今年の2月に

それにしましても、《SHIP'S CAT(Muse)》のオレンジ色のスーツと美術館の黒のコントラストはお見事。美術館に入ると、建物の内部は外壁の黒から一転、グレー系のやわらかな色調に変わり、スケールの大きな吹き抜けの空間になりました。

展覧会を観るには、2階のチケットカウンターから4階の展示室まで、長いエスカレーターに乗りゆっくりと進んでいきます。少しずつ遠のいていく階下の風景を見ながら、高まっていくワクワク感。

5階は、6mの天井高を確保した大規模な展覧会も開催できる展示室。まずはお目当てのモディリアーニ展(2022.4.9-7.18)を堪能。頭のなかはモディリアーニ1色になりながら、鑑賞後はゆるやかな階段で4階へ降りていくと、なにやら大きな物体が! ヤノベケンジ氏の寄贈作品《ジャイアント・トラヤン》(2005)です。高さ7.2mのド迫力のトラヤンを好きな高さから見る事ができ、階段を降りてトラヤンの近くにも寄れるトラヤンのためのスペースです。《SHIP'S CAT(Muse)》も《ジャイアント・トラヤン》も、美術館を守っているんだね。

将来、お隣の国立国際美術館と美術館同士を結ぶ橋も開通予定とのこと。次はいつ行こうかな。(A.T.)



ヤノベケンジ 《ジャイアント・トラヤン》(2005) トらヤンを探してね!

冬のイルミネーション必見
大阪市中央公会堂

大阪中之島美術館
公式サイト



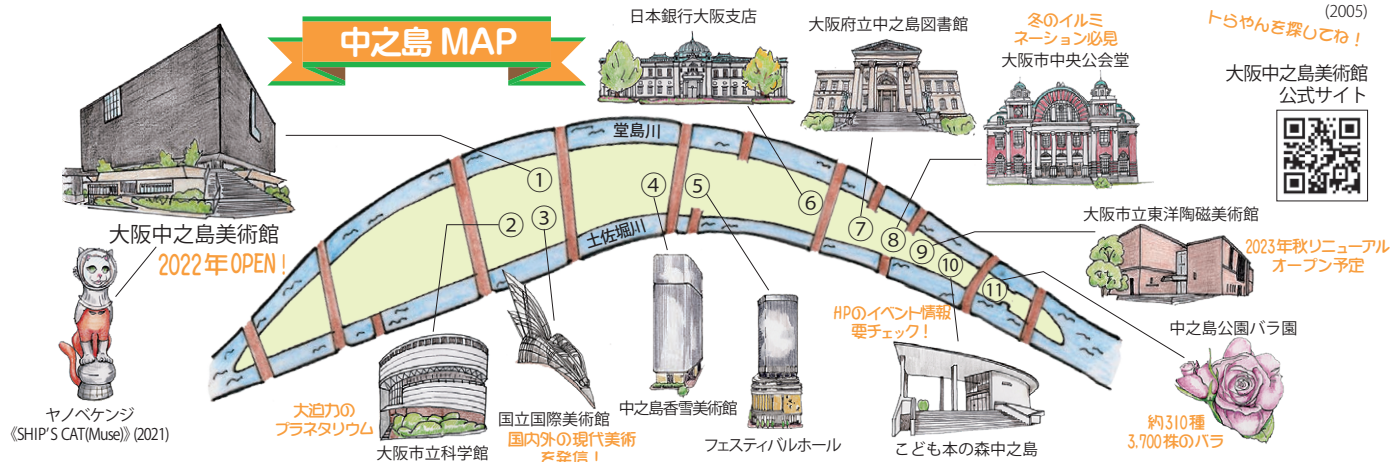
大阪市立東洋陶磁美術館

2023年秋リニューアルオープン予定

中之島公園バラ園

約310種
3,700株のバラ

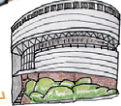
中之島MAP



大阪中之島美術館
2022年OPEN!



大迫力の
プラネタリウム
大阪市立科学館



国立国際美術館
国内外の現代美術
を発信!



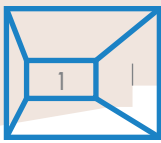
中之島香雪美術館
フェスティバルホール



HPのイベント情報
要チェック!



こども本の森中之島



第25回記念 凧の会展

2023年1月10日(火)～1月15日(日)
一般展示室 1,2,3,4

今回は25回記念展と言う事で、29名のメンバーは張り切っています。1年間の研修の成果として、絵画・彫刻・工芸(新)の力作を大作から小品まで約200点展示致します。是非、ご来場をお待ちしております。



前回の会場風景

山田郁子展

2023年2月21日(火)～2月26日(日)
一般展示室 1

日展、白日会展、埼玉県展、さいたま市展に人物画を中心に出品してきました。又、個展には静物画、風景画を展示、発表してきました。50年間描き続けた作品を展示します。御高覧賜り講評をお願い申し上げます。



秋日和「与論島の菊お婆」

女子美術大学同窓会埼玉支部作品展 第14回「彩の会」

2023年2月21日(火)～2月26日(日)
一般展示室 2,3,4

隔年開催してきました女子美術大学同窓会埼玉支部展もコロナの影響で、3年ぶりの開催となります。今回の会期中、女子美術大学学長・小倉文子先生の講演会も予定しています。どうぞお楽しみにお越しください。



前回の会場風景

第37回溪水会展

2023年4月4日(火)～4月9日(日)
一般展示室 4

いろんな分野の人達が集まった展覧会です。油彩画、水彩画、水墨画、墨彩画、パステル画、鉛筆画、版画、工芸品等、バラエティーに富んだ展覧会ですので、御来場の皆様には楽しんでいただけたらと思います。



前回の会場風景

細田喜代美展

2023年4月18日(火)～4月23日(日)
一般展示室 3

10数年間描きためた作品を発表する初めての個展です。油彩・パステル画を中心に、風景・静物・人物などを、対象のリアルに迫るように描く努力をしまりました。御来場の皆様には楽しんでいただければ幸いです。



細田喜代美「ロモノーソフ中国風宮殿」

ヨシズミ トシオ個展 第67回ありあるクリエイションズ 藝術企画

2023年4月18日(火)～4月30日(日)
一般展示室 4

新・近作の油彩画、水墨画、銅版画、表現の可能性の展示。海外で開催されました国際トリエンナーレの受賞作品も併せて発表いたします。御高覧戴けましたら幸甚です。



前回の会場風景

第46回埼玉女流工芸展 (公募)

2023年4月27日(木)～4月30日(日)
一般展示室 1

夢を追いつづけ…より高く…より美しく…より深く…染・織・漆・陶・七宝・硝子・金工・皮・藤・木彫・刺繍・押花・樹脂・日々の生活を彩り楽しむコーディネート作品など、女流工芸作家による創造性豊かな作品を展示。



前回の創立45周年記念展風景

第26回埼玉二科展

2023年5月2日(火)～5月7日(日)
一般展示室 1,2,3,4

二科埼玉支部所属作家の作品発表の場であり、同時に支部主催の公募展に応募された作品の発表です。絵画、彫刻、デザイン作品、約200点を展示する予定です。応募を歓迎します。



前回の応募作品

賛助会員名簿／私たちは美術館を応援しています (2022年3月1日現在)

■特別賛助会員

(株)ライ設計 浦和興産(株)
(株)ガロ (株)埼玉画廊
税理士法人さかえ会計 (株)神住建
(株)テレビ埼玉 DAY HAPPY
日本畜産興業(株) (株)細井技研
丸沼芸術の森 (株)万世
(株)武蔵野銀行 (株)明成 ペペロネ

(株)エフエムナックファイブ
(株)埼玉りそな銀行
全和会 秩父中央病院
(有)二木屋
松田産業(株)
武蔵野環境整備(株)
メガソーラー機構

■法人賛助会員

(有)ギャラリー藤井 群炎美術協会 埼玉支部 溪水会
(株)コア 工芸新樹会 埼玉独立
埼玉二科会 埼玉二紀会 CAF.N協会
(一社)新構造社 埼玉支部 (有)とらや (有)中村元
見沼100年構想の会 凧の会

■個人賛助会員

岡田 謙司 岡部 美代子 加藤 正宏 小松 弥生 小森 光子
清水 武司 高橋 碩子 滝沢 布沙 根岸 和美 野口 真理
廣澤 公太郎 丸山 晃 横尾 嘉子

ファミス (fam.s) とは

About fam.s

ファミス (fam.s) とは、埼玉県立近代美術館友の会フレンドの愛称です。美術館を支援し、芸術文化の振興、心豊かな社会づくりに貢献することを目的に活動しています。

会員には様々な特典があり、入会は随時受け付けております。

詳しい内容については、美術館HP (<https://pref.spec.ed.jp/momas/>) もしくはフレンド事務局 (TEL048-824-0111) までお問い合わせください。



編集後記

46号でご紹介した「中銀カプセルタワービル」の解体が10月1日無事終了しました。140のカプセルは、ひとつひとつ上の階から順に外され、そのうちの23カプセルが再生工場へ運ばれて行きました。カプセルの取り外しや運搬の時には、多くのファンの方が撮影に訪れていました。竣工から50年。おつかれさまでした。(A.T.)

